

熊本県立荒尾支援学校

PTA役員会便り

令和元年 7月4日 第2号

PTA会長 阿部
PTA書記 中村
(教頭) 池本

第2回PTA役員会の報告

役員みなさん たくさんのご意見をありがとうございました。
役員会の内容は以下のとおりです。

- (1) 県知P総会(5/11)及び九知P「長崎大会」(6/10、11)の報告
九知Pには、阿部会長、武内理事、堀川校長先生が出席されました。
- (2) PTA校内美化作業及びPTA研修
ともに8/24(土)に実施予定です。
詳しくは、後日お知らせします。
- (3) オープンスクール・ハートフルシンポジウム
○当日の保護者駐車場の説明と確認がありました。
併せて、日頃の職員駐車の実態についての説明もありました。先生たちの半数は、毎日「岱志高校」に駐車されているそうです。
○「一人一役」希望調査のお礼と依頼内容の説明がありました。
- (4) 今後のARA・SHI運動会についてのご意見
「卒業生が多く来校されていました」
「卒業生が参加できる競技があるといいですね」
※運動会企画の先生へお伝えします。
- (5) 次回のPTA役員会は、
7月18日(木) 13:30~14:30 です。

オープンスクール・ハートフルシンポジウム 「一人一役」

事前の希望調査では、たくさんの方からご希望の提出をいただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。

当日は、雨の中、本当にお世話になりました。

駐車場係、保護者用受付係、一般参加者の受付・誘導係、湯茶係と・・・笑顔で対応いただきありがとうございました。



荒尾市増永の荒尾支援学校(堀川丞義校長)は26日、同校で2019年度「オープンスクール・ハートフルシンポジウム」を開催した。福祉関係者など280人が公開授業や講演を通して共生社会の在り方について学び合い、地域連携に向けて情報交換などを行った。

同校では、学校と行政、福祉、医療の全てとの連携が必須だとシンポジウムを

開始。障害の有無にかかわらず全ての人が住みやすい社会を目指して、今年で22回目を迎えた。

玉名市の障害者支援施設「たまき荘」の金和史岐子施設長が「ケアコミュニティの基づくり」を誰かが主役の人生を送れる地域を目指す」とを演題に講演。「ケアとは他人を思う気持ち」と、それを基礎として鍛えられた専門性」と述べ、地域生活の中にケアがある

たまき荘の金和史岐子施設長が「ケアコミュニティの基づくり」を誰かが主役の人生を送れる地域を目指す」とを演題に講演。「ケアとは他人を思う気持ち」と、それを基礎として鍛えられた専門性」と述べ、地域生活の中にケアがある

(田上 友樹)

支援学校オープンスクール

ハートフルな共生社会を 地域連携に向け情報交換

荒尾

まちづくりが必要だと話した。

また、所属する社会福祉法人玉名会の新たな取り組みとして、今年4月に玉名市にオープンした地域福祉交流館「Finding」

についても紹介。社会福祉法人によるNPO支援センターは全国初となることを話し「気軽に見学に来てくだ

さい」と呼び掛けた。

各学級の公開授業や、高等部の生徒が現場実習での取り組みの発表を実施。荒玉地域の福祉事業所はボスターなどでそれぞれの活動などを展示し、情報提供・交換も行われていた。

